



Assets（資産）の語源は？ | 金融・経済の英単語



金融庁が「仮想通貨（virtual currency；バーチャルカレンシー）」から「暗号資産（crypto asset；クリプトアセット）」に呼称を改める検討に入りました。連載第2回は、その「Asset（アセット）」を取り上げます。



逆形成で創造されたAssets

会計分野では基本語のひとつである assets（資産）という言葉はいささか不思議な運命を経てきた言葉です。

この単語は asset として辞書に出ていますが、実は先に複数が存在した語です。その源はラテン語の「十分に」という意味の ad satis という副詞句表現で、昔のフランス人が古形 asetz という綴りを複数形と勘違いしたことから、後になって、逆に-sをとって「単数形」が創造されたのでした。このようなことは歴史上よく起こることで、言語学では「逆形成（back formation）」と言われる現象です。

「逆形成」の例としては pea（エンドウ豆）という語がよく知られています。これはもともと pease と言ったのですが、いつのまにか-sの音が複数形と間違えられて、-sをとった語形が単数とされてしまったのです。

同じような例で、イタリア語には日本語の「柿」という言葉が外来語として入っているのですが、複数の柿は cachi と言い「カキ」と読み、ひとつですと caco 「カコ」と読みます。これはイタリア語の男性名詞の大半が単数では -o、複数では -i という語尾をとるため、cachi を複数形と勘違いしたことから起きたのです。こちらは言語学で「過剰訂正（hypercorrection）」と言われる現象例です。

ともあれ、古くは have assets というと「十分に支払える」というような意味になり、asset という語が生まれたのでした。

Satisfactionを分解してみると・・・

ところで、先ほどの satis という綴りは、どこかで見たことがありませんか。そうです。英語で有名な単語に satisfaction（満足）がありますね。

私はローリングストーンズの「サティスファクション」が大好きでよく聴いていましたが、この単語はラテン語の satisfacere という動詞から出たものです。facere は「する、つくる」という意味の重要な動詞で、この動詞が satisfy（十分に作る -> 満足させる）となったのです。

satisfaction は名詞で、形容詞は satisfactory (満足な) ですね。副詞の satisfactorily (十分に) も大変使用頻度の高い語です。

形容詞の形を見て「工場」の factory を思い出した方は、もうこの「言葉のパズル」に慣れてきましたね。「(ものを) つくる場所」と考えれば当然といえます。

さらにこの単語とにらめっこすると、中に fact (事実) という語が隠れているのに気付きましたか。これは先ほどのラテン語 *facere* の過去分詞 *factum* の子孫なのです。だとすると「行為者」を示す *or* がついたのが *factor* (作るもの語尾 -&t; 要因) となります。動詞の方は、おおむね -ify という語尾をもって英語化しています。signify (意義をもつ)、beautify (美化する)、pacify (鎮める) などがそうです。

マイクロソフト社の Windows のような「事実上の標準」を意味する「デファクト・スタンダード」*de facto standard* の *de facto* はラテン語です。*facere* 一族の話をしていると、それだけでこの連載のページがなくなってしまうので、この辺にしておきましょう。

さて形容詞 *satis* の方はどうなったかと申しますと、これがダイレクトに動詞化した語の過去分詞が *satiare* (満腹させる、うんざりさせる) です。ビジネスの分野では「商品を過剰供給する」という意味でも使われます。化学の分野でよく使う *saturate* (しみ込ませる -&t; 飽和させる) もそうです。

面白いところでは「風刺」の *satire* という語もこの仲間で、「寄せ集めて満腹にしたもの」が原義です。

この *satis* は非常に古い段階では英語の *sad* とルーツが一緒で、元は「満足した」という意味から「うんざりした」、ついには「悲しい」とまるで反対とも思えるような意味に変化していきます。

これに似た語で *sate(d)* (食べ飽きた) という語が現代英語に生き残っています。一度でいいからうんざりして「悲しく」なるほど *assets* を持ってみたいものです。

文：猪浦道夫・天宮徹也 (共同執筆) / 編集：M&A Online編集部